

# 次世代シニアと 現在形シニア

## その意識と行動

NEXT  
OLD



NEW  
OLD

◎2020年を過ぎる頃から現在の50代は、65歳以上の高齢者の仲間入りをし始めます。今の50代が高齢者の仲間入りをすると超高齢社会はどのように変わるのでしょうか？また、高齢者にとつての幸せや生きがいとは、何なのでしょうか？

▼公益財団法人ハイレイフ研究所では、この先の超高齢社会を見据えた研究を行う一環として50代から70代前半男女の生活行動、生活意識調査を実施いたしました。（調査概要を参照）。

▼ここでは、その調査結果の一部を連載コラムとしてご紹介いたします。

「次世代シニア（50代）」と「現在形シニア（60代後半から70代前半）」の年代間比較、男女間比較、ときにそのハザマとなる60代前半の特徴なども織り込みながら、それぞれの意識や行動をお伝えいたします。

▼また、「仮説的」な読み解きや、「一生活者」として感じた生きるためのヒントなども添えていきたいと考えていますので、ぜひご一読下さい。

公益財団法人ハイレイフ研究所

＜ハイレイフ研究所「次世代高齢者調査」調査概要＞

①調査対象 東京30km圏に居住する満51歳～75歳の男女

②標本数(有効回収数)500 51～55歳・56～60歳・61～65歳・66～70歳・71～75歳 男女計各100

③標本抽出法 エリアサンプリング法 ④調査方法 留置法(訪問調査) ⑤調査時期 平成28年10月～11月

# 次世代シニアと 現在形シニア

その意識と行動

NEXT  
OLD



NEW  
OLD

第六回  
友達はどうにいる?  
「人付き合い」の  
現在。



# 第六回

## 友達はどこにいる？ 「人付き合い」の、現在。

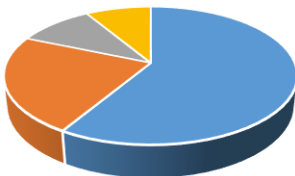


### ◇◆調査対象・言葉の定義◆◇

次世代シニア(51歳から60歳)

現在形シニア(66歳から75歳)

- 仕事・子育て中心の付き合いから**趣味**や**地域**の付き合いへ。
- 女性は**10代**と**30代**のときに、  
男性は**10代**と**20代**のときに大切な友と出会う。
- 男性60歳前後は親しい人数が凹む。**人付き合いの再編期**。
- 「**異性**の親しい友人・知人が一人以上いる」女性は60代が最も多い。
- 男性より女性が上の「**人の話に耳を傾ける**」心がけ。
- 現在形シニアの3人に一人は**ボランティア**や**自治会活動**に参加。**4人に一人**は定例的・日常的な活動を行っている。
- **同窓会**(学校・仕事)が最も活発なのは現在形シニア男性。
- **メール**は現在形シニアにもかなり浸透。一方で「**声**」の交流も。



NEXT  
OLD

NEW  
OLD

# 第六回 友達はどこにいる？「人付き合い」の現在。

1. ふだん付き合っている中で特に大切な友人（またはグループ）のタイプ

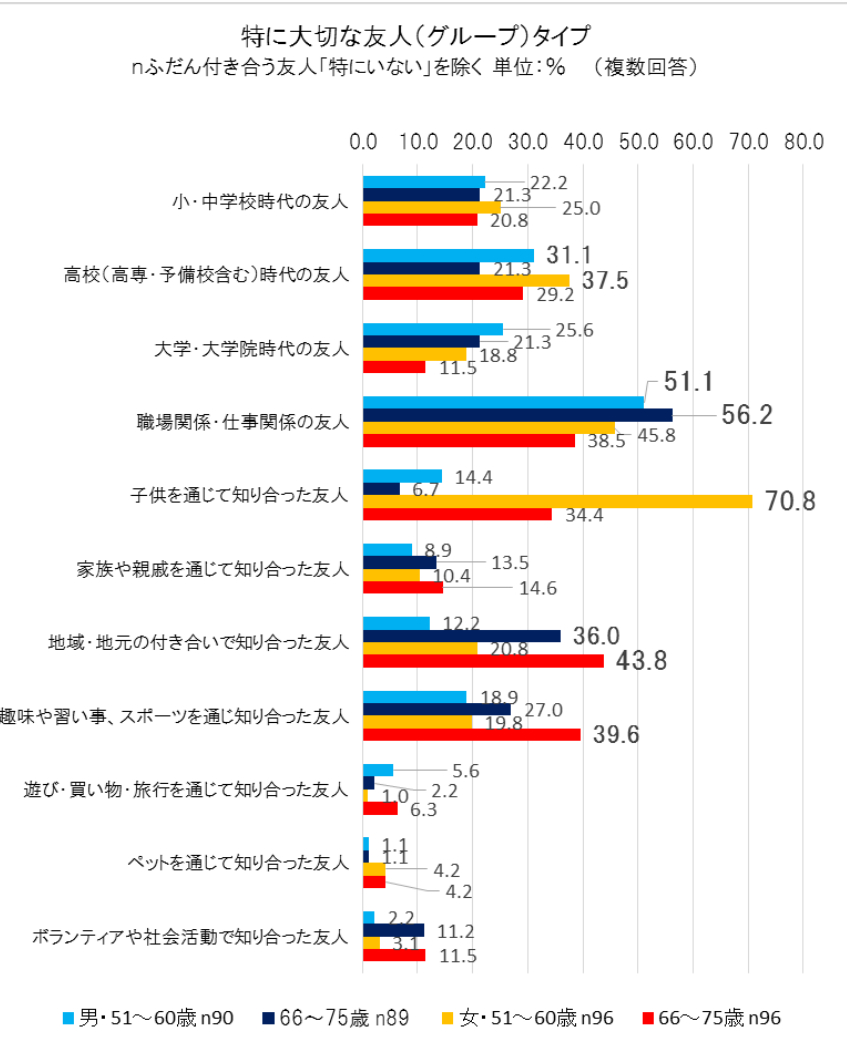
## 仕事・子育て中心の付き合いから、趣味や地域の付き合いへ。

連載第六回は次世代高齢者調査より「人付き合い」の現状についてご報告いたします。高齢者にとって「孤立」はお金がないこと、健康を損ねること以上に深刻な事態であるとも言われています。家族、友人など様々な関係の中で人は生きています。今回は「友人・知人」に焦点を当て、現在形シニア（66歳～75歳）と次世代シニア（51歳～60歳）並びに男女を比較しながら現状を探っていきたいと思います。

はじめは「ふだん付き合う特に大切な友人（グループ）」（複数回答）を聞いた結果です。下のグラフをご覧ください。

【男性比較】次世代シニア、現在形シニア共通に最も多かったのは「職場・仕事関係の友人」で半数以上に及びます。現在形シニアで次に多いのは「地域・地元の付き合いで知り合った友人」で、3人に1人程（36%）、「趣味・習い事、スポーツを通じて知り合った友人」が4人に1人程度（27%）で続きます。それに対して次世代シニアは「高校時代の友人」（31.1%）「大学・大学院時代の友人」（25.6%）の順に多くなっています。現在形シニアは仕事関係に加えて地域、趣味など人生後半戦を充実させる付き合いが育っている、と読むことができます。

【女性比較】次世代シニアは「子供を通じて知り合った友人」が約7割と多く「職場・仕事関係の友人」（45.8%）「高校時代の友人」（37.5%）と続くのに対して、現在形シニアは「地域・地元のつきあい」（43.8%）「趣味・習い事、スポーツ」（39.6%）「職場・仕事関係の友人」（38.5%）が続きます。

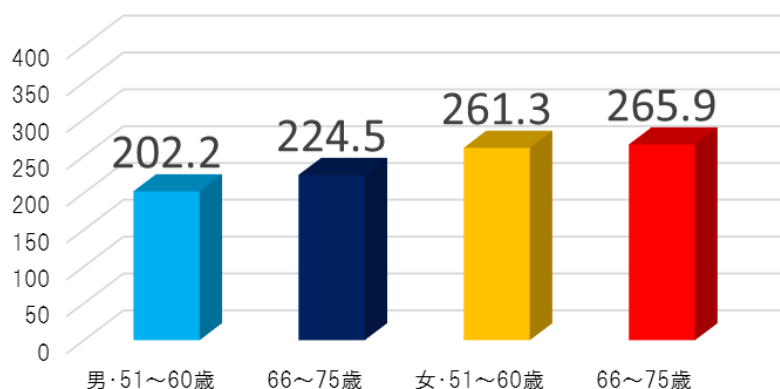


## 2. 特に大切な友人(グループ)タイプ累計と、出会った時期

# 女性は10代と30代のときに、 男性は10代と20代のときに大切な友と出会う。

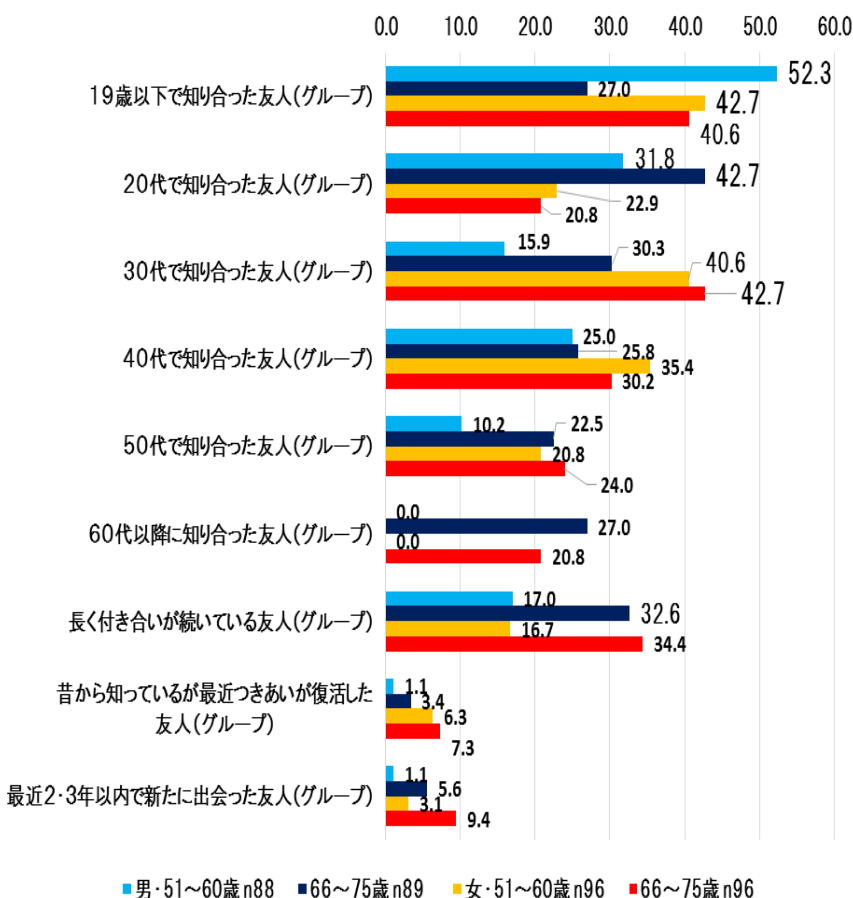
### ①特に大切な友人(グループ)タイプ累計

特に大切な友人(グループ)タイプ累計  
n くだん付き合う友人「特にいない」を除く 単位:%



### ②特に大切な友人(グループ)に出会った時期

特に大切な友人(グループ)に出会った時期  
n 特に大切な友人(グループ)がいる人 単位:% (複数回答)



●前頁で回答のあった「ふだんつきあう特に大切な友人」タイプ(=何で知合った友人か)を合算し累計値を算出しました。百で割ると一人当たりの友人タイプ数が見えてきます。次世代シニア(51～60歳)では男性が約2.2タイプ、女性は約2.6タイプ、現在形シニア(66～75歳)は同様に男性が約2.2タイプ、女性は約2.7タイプとなります。

まず気づくのは、いずれの年代も女性の方が大切な友人タイプにやや広がりがあるという事です。数字の見方は例えば「地元と趣味と職場」に大切な友人がいれば累計値は「3」になるということです。もうひとつは男女とも年代間でさほど大きな差が見受けられないということです。

●いつ頃の出会いが現在の「特に大切な友人」を形作っているのでしょうか。

【男性】

#### ①次世代シニア

知り合った年代は19歳以下から、加齢とともに減り40代でやや増えるが50代で知り合った友人は最も少ない。40代で増えるのは転職など仕事の変化との関係が想像できます。

#### ②現在形シニア

知り合った年代は20代をピークに加齢とともに減り60代でやや増えます。60代で地域や趣味、新たな仕事仲間ができた事が想像できます。

【女性】

#### ①次世代シニア

知り合った年代は19歳以下と30代40代にピークがあります。子育てとの関連をうかがわせませす。

#### ②現在形シニア

知り合った年代は19歳以下と30代にピークがあり、やはり子育てとの関連をうかがわせませす。

「長く付き合いが続いている友人」は現在形シニアの方が多いようですが、感じ方や直近の会う頻度などの影響もあり、解釈が難しいところです。

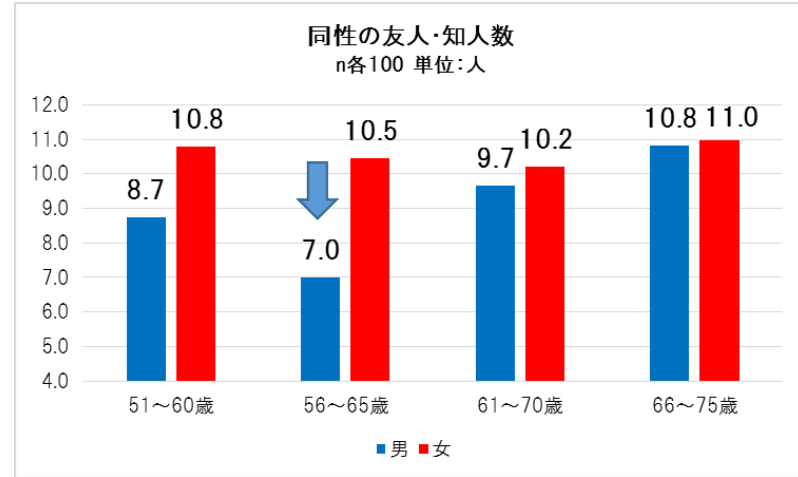
NEXT  
OLD

NEW  
OLD



3. 同性の親しい友人・知人の人数

男性60歳前後は親しい人数が凹む。お付き合いの再編期。



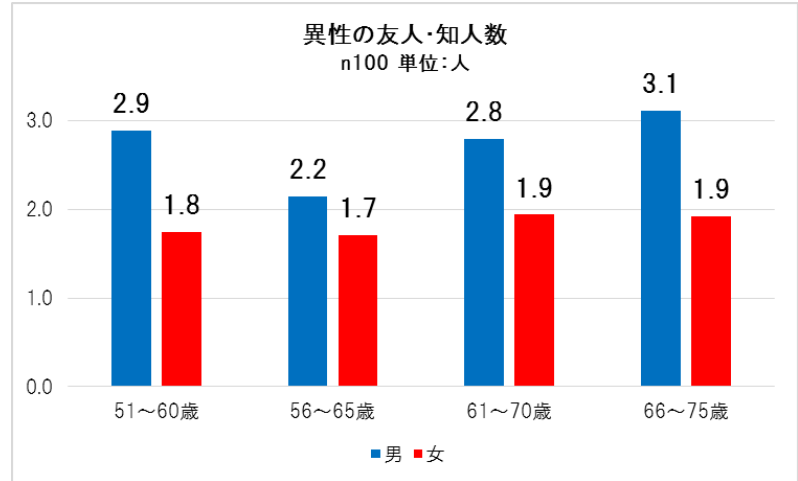
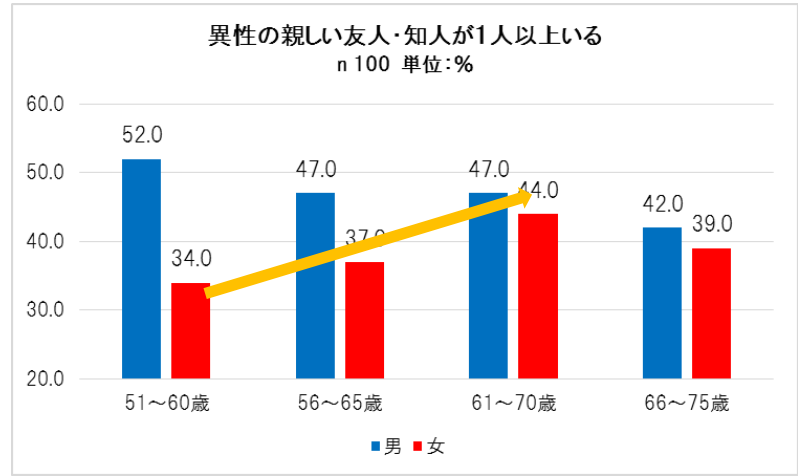
●左のグラフは「同性の親しい友人・知人の人数」の平均値です。年代による変化の傾向をつかみやすくするために移動平均的な発想を取り入れ5歳ごとの重なりをずらした区分で集計しました。

男性56～65歳に人数の谷があります。60歳前後は定年を迎えるなど人生後半戦への移行期です。グラフにはありませんが、この層は「親しい友人知人がいない」人が17%と最も多く存在し、平均値にも反映しています。会社をやめてみたらふだん付き合う親しい友人が見当たらない、などといった光景が目につきます。その上の年代になると人数が多くなります。新たな付き合いが始まりを感じさせます。

男性に比べて女性は年代差が少なく「親しい友人知人がいない」人も僅かです。

4. 異性の親しい友人・知人の有無と人数

「異性の親しい友人・知人が一人以上いる」女性は60代が最も多い。



「異性の親しい友人・知人の人数」については「一人もいない」人が多く存在します。そこで、まず「一人以上いる」人の率をみたのが左のグラフです。51～60歳は男女の回答に開きがあります。男女の「親しさ基準」の違いによるものか、専業主婦や有職者など女性のライフコースの多様さに起因する環境によるものか気になるところです。61歳以降では率の男女差が少なくなっています。

男性の場合、年代が上がると徐々に減る。女性の場合は逆に年代とともに徐々に増え、61～70歳でピークとなります。同年代の男性の地域や趣味活動が始まり、女性が男性と接する機会が増えるのかもしれませんが、50代男性の場合は職場などでのつきあいが人数を押し上げていると思われる。

男性56～65歳は同性の場合同様、異性でも人数の凹みが見てとれます。やはり職場のつきあいが定年などで変化する影響をうかがわせます。ここでも人付き合いの再編時期であることを示しています。女性の場合、人数に年代差は多くていませんが親しい付き合いの、人の入れ替わりはあるものと思われます。

## 男性より女性が上の「人の話に耳を傾ける」心がけ。

次に「人付き合いで心がけていること、人間関係に対する考え方」についての特徴を見ていきたいと思います（選択肢17提示・複数回答）。下の表は51～60歳（次世代シニア）、66～75歳（現在形シニア）それぞれ男女別に回答率が高い順に並べたランキング表です。どの層も「損得なしの付き合いをしたい」という考え方が最も高い率を示しています。

次に同性の年代間と、同年代の男女間を比較し、差の大きな項目を見ていきましょう。

【男性・次世代シニア＞現在形シニア】「仕事の役に立つ人脈づくりをころがけている」（+12）

【男性・現在形シニア＞次世代シニア】「自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい」（+18）

「損得なしの付き合いをしたい」（+15）

【女性・次世代シニア＞現在形シニア】「人付き合いは苦手でつい億劫になってしまう」（+13）

【女性・現在形シニア＞次世代シニア】「人の話によく耳を傾けるようにしている」（+21）

「自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい」（+11）

【次世代シニア・女性＞男性】「損得なしの付き合いをしたい」（+17）

「人の話によく耳を傾けるようにしている」（+14）

【現在形シニア・女性＞男性】「人の話によく耳を～」(+26)

男性、女性に共通して、現在形シニアが次世代シニアを上回る考え方が「自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい」となっています。「人脈づくり」より「気楽な縁づくり」を大事にしています。世代的な特徴というよりは仕事との関わり方や年代による差といえましょう。また、年代を問わず女性のほうが上回るころがけが「人の話によく耳を傾けるようにしている」ことです。現在形シニアでは特に差が開いています。男性は、加齢とともに「人の話を聞かなくなる」ことがないよう意識する必要があります。

【男性】人付き合いで心がけていること・人間関係に対する考え方(MA)

|         |                        | 男性      |                        |
|---------|------------------------|---------|------------------------|
| 51歳～60歳 |                        | 66歳～75歳 |                        |
| 1       | 損得なしの付き合いをしたい          | 48      | 損得なしの付き合いをしたい          |
| 2       | 立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい   | 47      | 立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい   |
| 3       | 気が合う人とだけ付き合いたい         | 38      | 人の話によく耳を傾けるようにしている     |
| 4       | 人数は少なくとも深い付き合いをしたい     | 36      | 気が合う人とだけ付き合いたい         |
| 5       | 人の話によく耳を傾けるようにしている     | 29      | 人数は少なくとも深い付き合いをしたい     |
| 6       | 学びあえる人と付き合いたい          | 21      | 自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい    |
| 7       | 尊敬しあえる人と付き合いたい         | 21      | 老若男女、さまざまなタイプの人と付き合いたい |
| 8       | できるだけ多くの人と親しく付き合いたい    | 19      | できるだけ多くの人と親しく付き合いたい    |
| 9       | 仕事の役に立つ人脈づくりをころがけている   | 19      | 尊敬しあえる人と付き合いたい         |
| 10      | 老若男女、さまざまなタイプの人と付き合いたい | 15      | 学びあえる人と付き合いたい          |

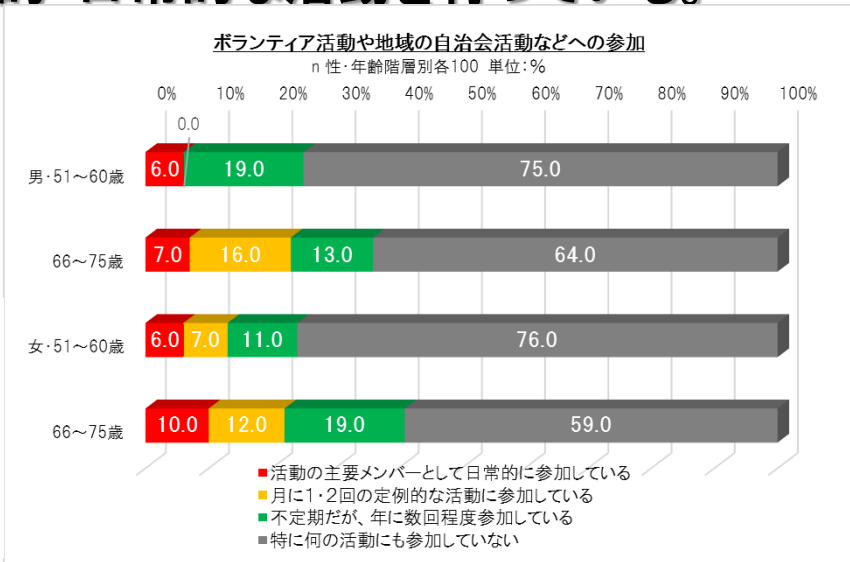
年齢別 n=各100 単位: %

【女性】人付き合いで心がけていること・人間関係に対する考え方(MA)

|         |                        | 女性      |                        |    |
|---------|------------------------|---------|------------------------|----|
| 51歳～60歳 |                        | 66歳～75歳 |                        |    |
| 1       | 損得なしの付き合いをしたい          | 65      | 損得なしの付き合いをしたい          | 72 |
| 2       | 立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい   | 56      | 人の話によく耳を傾けるようにしている     | 64 |
| 3       | 人の話によく耳を傾けるようにしている     | 43      | 立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい   | 47 |
| 4       | 人数は少なくとも深い付き合いをしたい     | 42      | 学びあえる人と付き合いたい          | 37 |
| 5       | 気が合う人とだけ付き合いたい         | 41      | 人数は少なくとも深い付き合いをしたい     | 36 |
| 6       | 学びあえる人と付き合いたい          | 30      | 気が合う人とだけ付き合いたい         | 35 |
| 7       | 尊敬しあえる人と付き合いたい         | 27      | 自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい    | 33 |
| 8       | 自分に近い年齢の人と気楽に付き合いたい    | 22      | 尊敬しあえる人と付き合いたい         | 30 |
| 9       | 老若男女、さまざまなタイプの人と付き合いたい | 18      | 老若男女、さまざまなタイプの人と付き合いたい | 21 |
| 10      | 人付き合いは苦手でつい億劫になってしまう   | 16      | できるだけ多くの人と親しく付き合いたい    | 17 |

年齢別 n=各100 単位: %

# 現在形シニアの3人に一人はボランティアや自治会活動に参加。4人に一人は定例的・日常的な活動を行っている。



ボランティア活動や地域の自治会の活動などに参加しているかを聞いた結果が上のグラフです。グレー以外の色で示した部分が、なんらか活動に参加をしている人の率の総和になります。

男性の場合、次世代シニア（51～60歳）の活動参加率は25%、現在形シニア（66～75歳）となると34%と9%高くなるとともに「月1・2回の定例的な活動に参加している」人が増えます。

就業率との関係も気になります。連載第4回にご報告した結果から再掲しますと、就業率（収入をとまなう仕事を現在している率）は男性次世代シニアは98%、現在形シニアは53%でした。因果関係が認められるわけではありませんが、現在形シニアは仕事をしていない人も多く、その分、定期的なボランティア活動に時間や気持ちを振り向ける姿が目に見えます。

女性の場合、次世代シニアの活動参加率は男性とほぼ同じ24%、現在形シニアでは41%と次世代シニアより17%高くなります。その約半数は定期的以上の参加行動をとっています。こちらも男性同様、就業率を示しますと、次世代シニアは77%、現在形シニアは30%となっています。

今回の「次世代高齢者調査」では、ボランティア活動の中身までは聞いていません。どんな活動が多いのか、これも気になることです。「平成28年社会生活基本調査（総務省統計局）」に「男女、年齢、ボランティア活動の種類別行動者率」が取り上げられていますので参考にしたいと思います。詳細は総務省統計局のホームページをご覧くださいとて、最も多かったのは「まちづくりのための活動」でした。年齢区分が私たちの調査とは異なりますが各区分ごとに上位活動を並べます。

（以下〇〇のための活動、〇〇を対象とした活動 下線部分省略）

【男】

- |        |             |            |               |
|--------|-------------|------------|---------------|
| 50～54歳 | ①まちづくり15.1% | ②安全な生活7.3% | ③子供6.6%       |
| 55～59歳 | ①まちづくり16.5% | ②安全な生活7.8% | ③自然や環境を守る5.8% |
| 65～69歳 | ①まちづくり18.6% | ②安全な生活9.7% | ③自然や環境を守る6.7% |
| 70～79歳 | ①まちづくり18.3% | ②安全な生活9.8% | ③高齢者6.8%      |

【女】

- |        |             |           |               |
|--------|-------------|-----------|---------------|
| 50～54歳 | ①まちづくり13.0% | ②子供9.8%   | ③自然や環境を守る5.1% |
| 55～59歳 | ①まちづくり14.0% | ②高齢者6.4%  | ③子供6.0%       |
| 65～69歳 | ①まちづくり13.1% | ②高齢者9.0%  | ③子供4.9%       |
| 70～79歳 | ①まちづくり12.9% | ②高齢者10.3% | ③自然や環境を守る4.9% |

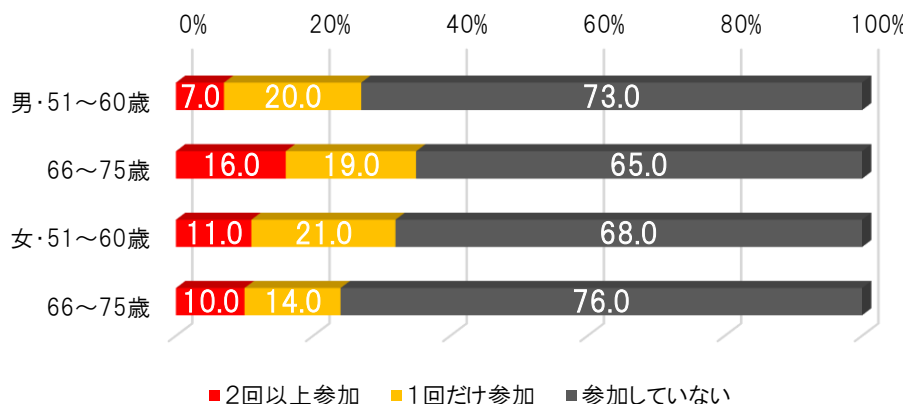
※その他の活動選択肢は、「健康や医療サービス関係」「障がい者を対象とした活動」「スポーツ文化芸術学術関係」「災害関係」「国際協力関係」



## 同窓会(学校・仕事)が最も活発なのは現在形シニア男性。

学生時代の同窓会やクラス会への参加(最近1年)

n 性・年齢階層別各100 単位:%

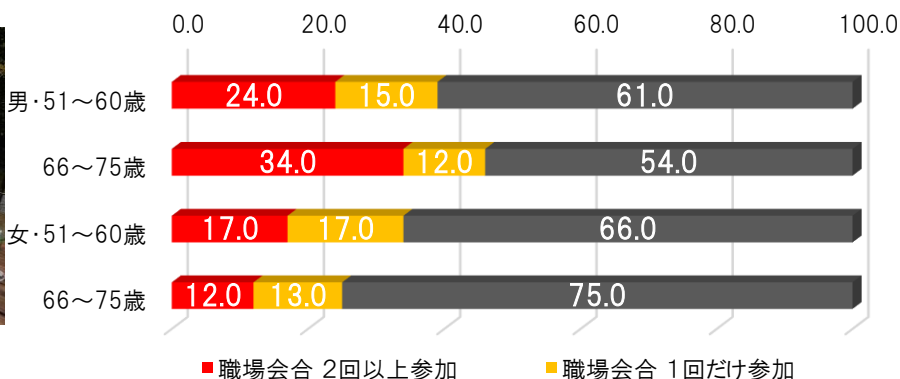


「小学校・中学高校、大学など」学生時代の同窓会・クラス会への年1回以上の参加率計は、男性の場合、現在形シニアは35%で次世代シニアの27%をやや上回り、2回以上の参加者も多くなっています。仕事の仕方の変化やリタイアなどで時間の余裕も出来、若い頃の気楽な付き合いを再開させる場面が浮かびます。

しかし、女性の場合は現在形シニアの参加率の方が次世代シニアよりやや少なくなっています。理由はわかりませんが、家族の介護負担などの影響もあるかもしれません。同窓会よりは本当に仲の良い少人数の集まりを重視しているのかも知れません。シニア女性がレストランなどで仲間同士賑やかに話をはずませランチする光景をみかけるように。

以前の勤務先や仕事仲間との同窓会や会食への参加(最近年)

n 性・年齢階層別各100 単位:%



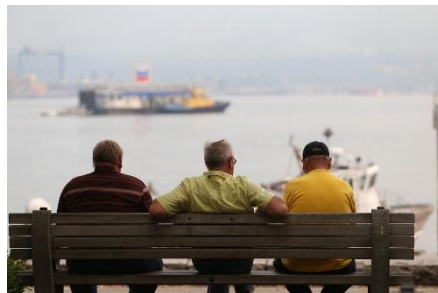
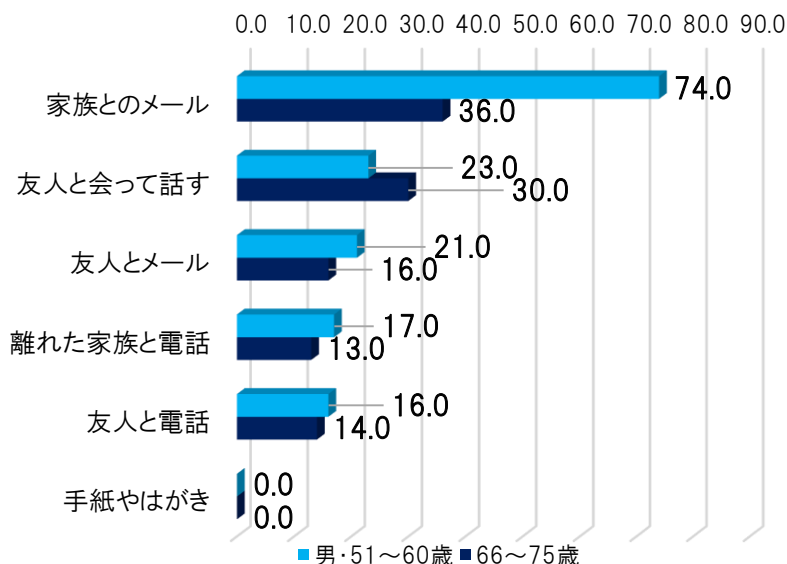
「以前働いていた勤め先や仕事仲間との同窓会や会食」への年1回以上の参加率計も、男性の場合、現在形シニアは46%で次世代シニアの39%を上回り、34%が2回以上、参加しています。ほぼ全員が仕事をしている次世代シニアの場合でも2回以上参加している人が24%います。転職前、異動前、以前の仕事仲間などが想定されます。女性の場合、いずれも男性ほど参加率が高くなく、現在形シニアが次世代シニアを下回るのも同様となっています。



# メールは現在形シニアにもかなり浸透。一方で「声」の交流も。

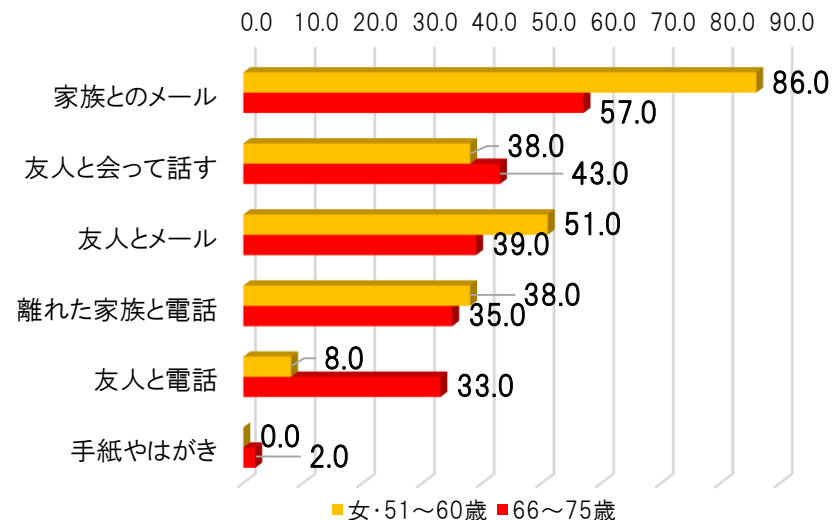
男性・コミュニケーション頻度(週1日以上)

n 100 単位:%



女性・コミュニケーション頻度(週1日以上)

n 100 単位:%



コミュニケーション頻度を手段と相手別に聞き、週1日以上行っている率を男女別に表したのが上の二つのグラフです(ちなみに「同居家族との会話(同居有り)」は100%の為グラフは省略)。次世代シニア男女の「家族とのメール」率の高さは不思議ではありませんが、現在形シニア、特に女性における家族や友人とのメールの浸透(家族57%・友人51%)は目を見張るものがあります。次世代シニアより現在形シニアで高いのが、男女共通に「友人と会って話す」、女性の「友人と電話」でした。「友人と電話」では次世代シニア女性と大きな差があります。リアルタイムですぐやりとり出来る、声のニュアンスで相手の気持ちを察することが出来る、などの効用が「声」にはあります。声によるコミュニケーションが減りつつある中、リアルな意味で「声に耳を傾ける」ことは人が人を理解する上で、もっと見直してもよいと気付かされます。

NEXT  
OLD



NEW  
OLD

# 結びに。

以上、ハイレイフ研究所「次世代高齢者調査」の「人付き合い」に関する調査結果をご紹介します。高齢者が生き生きとした生活を送る上で人との交流や支え合いは不可欠なものです。また、加齢とともに人付き合いの対象も変わっていきます。

当コラムの中では「男性60歳前後は親しい人数が凹む人付き合いの再編期」との報告をしました。男性に限らず定年などの人生の節目を境に会社や仕事を中心とした付き合い（社縁・職縁）から、地域や趣味、新たな仕事など（地縁・好縁・新職縁）へと付き合いがシフトする中、自ら「人付き合いに関する考え方や心がけ」を今一度みつめなおすことも大事でしょう。例えば長い年月の中で知らず知らずのうちに身につけてしまった帰属集団の中でしか通用しない人付き合いの「癖」、例えば社会的地位の高かった人の自慢話や横柄な態度が、地域などの新たな人間関係の中で摩擦や葛藤を生み、本人としては戸惑いの中で孤立する、といった話もよく聞きます。本人に悪気はないのです。習慣が変化に適應できなくなった結果です。

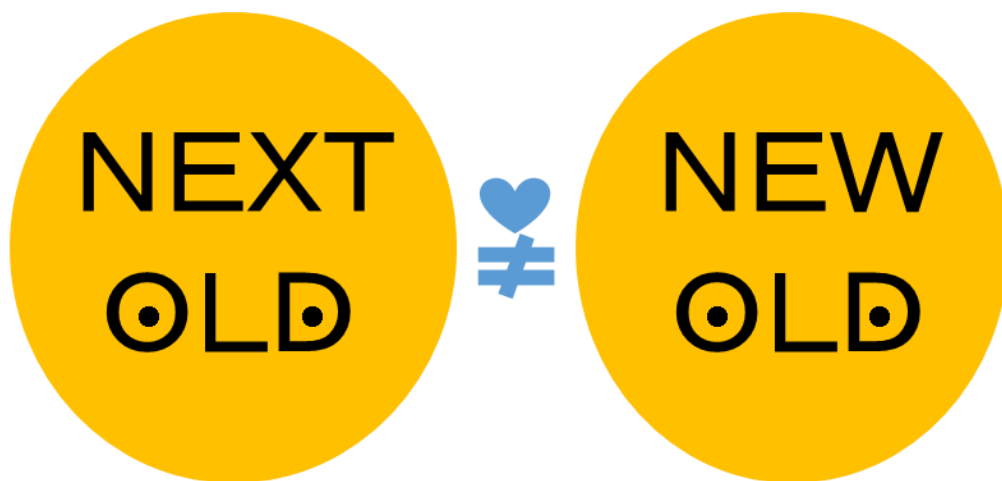
ここで今一度、調査結果の中から人付き合いという観点から「生きるヒント」を探りたいと思います。そこで「人づきあいで心がけていることや人間関係に対する考え方」に関する回答に新たなクロス集計を試みました。当調査では「人との交流」に関する生活満足度を聞き四段階（満足・まあ満足・やや不満・不満）で回答を得ています。その中の「満足している」と「やや不満である」という人の回答率の差の大きい項目に注目しました（「不満」数は僅少）。満足している人の方が高い項目＝こころがけの中にヒントがある、とみたわけです。差の大きい順に結論だけご紹介します。

1. 人の話によく耳を傾けるようにしている
2. 学びあえる人と付き合いたい
3. 尊敬しあえる人と付き合いたい
4. 老若男女、さまざまなタイプの人と付き合いたい
5. 立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい

人は共感することで人間関係を深めていきます。共感するには相手の言うことに耳を傾け趣味嗜好や考え方を知らなければなりません。知ることで共感し、趣味ならば「一緒にやりませんか？」という共通の体験がそこから芽生え、学びあい、尊敬しあう関係となり、場が生まれ様々な人とまた出会う、そこには学歴や地位や名誉や知ったかぶりが介入する余地のないフラットで気のおけない関係が生まれます。でも人が集まればそこには摩擦や嫉妬、妬みも生れるかもしれません、人間ですから。感情のコントロールが難しくなるケースもあるでしょう。だからこそ「こころがけ」を意識しながら、人生後半戦の人付き合いを実り多きものにしていきたいものです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。





Copyright©2017 Research Institute for High-Life

連載第七回予定

「健康！」(仮称)。

公益財団法人ハイレイフ研究所